

# 社会科学学習指導案

日時	平成24年11月21日(水) 5校時
場所	3年A組教室
学級	3年A組
	男子 9名 女子 12名 計 21名
授業者	七木田 俊

- 1 単元名 第3章 現代の民主政治と社会  
3節 地方の政治と自治 (東京書籍)

## 2 単元について

### (1) 教材について

日本国憲法第92条に、「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基づいて、法律でこれを定める」とある。「地方自治の本旨」とは、「団体自治」と「住民自治」という2つの側面によって考えられる。イギリスの政治学者ジェームズ・ブライスは、『近代民主政治』の中で「地方自治は民主主義の学校である」と述べたが、この言葉には、地方自治は生活に密着しており、住民の参加によって行われるべきという「住民自治」という側面についての意味合いが強く込められている。学習指導要領(公民的分野)の内容「(3) 私たちと政治 イ 民主政治と政治参加」にあたる本教材も、「地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる」ことをねらいとするなど、「住民自治」に力点を置いて、地方自治の理解を促す構成となっている。

1999年に、地方自治法をはじめとする400を超える法律の改正法である地方分権一括法が制定され、地方分権は大きく進展し、地方公共団体の裁量の幅が広がった。一方で、いわゆる「三位一体改革」により、所得税の一部が地方へ移譲された影響で、国庫負担金と地方交付税交付金が削減されるなど、地方の財政格差が拡大している。加えて、震災復興、深刻な少子高齢化、過疎化等、問題が山積する中、まさに地域住民として、さらに住みよいまちをつくるにはどうするか考え、参画を試みることは、「住民自治」の観点から地方自治の理解を深める、格好の材料となりうる。

### (2) 生徒について

社会科に関して、興味・関心を示している生徒は多い。家庭学習の取り組みも概ね良好である。しかし、公民的分野の学習に関しては、学校以外の地域社会、日本、世界の動向や時事問題に対する理解が十分でないため、実生活と密接に関わっているという実感を持つまでに至っていない。

授業では、既習の知識に関する一問一答形式の問いかけには概ね良い反応を示す。一方、自分の考えを求められたり、思考を伴う発問であったりすると、発言は乏しくなる傾向にある。

特に、自分と異なった考え方や意見について、資料等から導きだした根拠をもとに反論したり、他と自分の意見を客観的に比較し、自分の考えを再構築した上で発表したりすることは苦手としている。これらを踏まえ、『中学校学習指導要領解説 社会編』の[公民的分野]の目標「(4) 現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」に関する、「どのような根拠で結論を導き出したのかを、具体的、論理的に説明」すること、「第三者に学習で得た結論とその結論を導き出した過程をより分かりやすく効果的に示す」ことを指導の重点とし、多面的・多角的に考察する資料や場面を提供し、考察する際の視点を与えながら、思考力・判断力・表現力を醸成していきたい。

### (3) 指導について

『中学校学習指導要領解説 社会編』の「3 社会科改訂の要点 [公民的分野]」において、「オ 課題の探求を通して社会の形成に参画する態度を養うことの重視」と示された。特に本単元は、一地域住民として、自分のまちをより住みよいまちにするにはどうすればよいか(=まちづくり)、という観点から、「自分はこうすべきだと思う」という「意思決定」をさせながら、実際に自分が行動を起こし、社会と関わる「社会参画」といった要素を意識して指導する必要がある。

そこで、思考力・判断力・表現力の育成を喫緊の課題としている生徒の実態、及び学習指導要領の趣旨に鑑み、本単元ではまず、自分の生活基盤である岩泉のまちづくりを提案することを単元を貫く課題に設定する。そのために、地方自治に関する基礎的・基本的な知識、まちづくりの視点を習得させる。その上で、最終的に、実際に岩泉のまちづくりについて考えさせ(=意思決定)、提案する(=社会参画)。特に、まちづくりを提案するにあたって視点を習得させる授業では、次時に多面的・多角的考察ができるよう、生徒の意見を大切にしつつ、具体的に「面」や「角度」を整理するなど、視点を明確にする支援を重点に指導にあたりたい。

### 3 単元の見目

#### (1) 社会的な事象への関心・意欲・態度

- ・自分たちが住む地域社会へ関心を持ち、地域住民の一人として、地域の発展のために意欲的にまちづくりについて考えようとしている。

#### (2) 社会的な思考・判断・表現

- ・岩泉のまちづくりについて、既習事項や習得した視点から多面的・多角的に考察した上で自分の考えを記述し、発言することができる。

#### (3) 資料活用の技能

- ・地方自治に関する資料を適切に選択し、複数の資料を比較して読み取ることができる。

#### (4) 社会的な事象についての知識・理解

- ・地方自治の基本的な考え方について理解し、その知識を身に付けることができる。

### 4 単元の学習（評価規準）と家庭学習の内容

時	主な学習内容	評価規準			
		社会的な事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的な事象についての知識・理解
家	・教科書を参考に、岩泉のまちづくりについて知っていることを家族にインタビューする。 【予習】【関心・意欲】				
1	わたしたちと地方自治 【ウ→I→②→C】	・岩泉のまちづくり提案のために、必要な知識を身に付けようとしている。		・岩泉町が行っている仕事内容について、資料から適切に読み取っている。	
家	・岩泉町長と岩泉町議会議員の氏名（最低2人）を調べて書いてくる。【予習】【関心・意欲】				
2	地方自治の制度 【ウ→I→①→A】				・地方議会と首長の役割を中心とした地方自治のしくみについて理解している。
家	・合併した市町村を調べ、旧名称と新名称を書いてくる。【予習】【関心・意欲】				
3	地方財政 【ウ→I→②→A】	・岩泉町の10年後の歳出はどうなっているか考えようとしている。		・統計資料から地方財政の歳入や歳出を読み取っている。	
家	・地方自治に関わる用語や概念を確認してくる。【復習】【知識・技能】				
4	住民参加の拡大 【ア→II→⑤→A】				・住民の政治参加の方法について、そのあらしを理解している。
家	・インタビューになって、家の人の岩泉町の（まちづくりの）イメージを探る。【予習】【関心・意欲】				
5	わたしたちの政治参加① 【ウ→I→①→B】		・架空の町のまちづくりについて、複数の資料から自分の考えをまとめている。 ・自分のグループのまちづくりについて、学んだ視点をもとに考えている。		
家	・岩泉のまちづくりを考えてくる。【予習】【思考力・判断力・表現力】				
6	わたしたちの政治参加② 【イ→I→③→B】	・岩泉のまちづくりを考えようとしている。	・複数のまちづくり案の中で、自分が最も良いと思った案を選択している。		

## 5 研究主題と本時の授業とのかかわり

研究主題 「確かな学力の育成 ～授業と家庭学習のサイクル化を通して～」

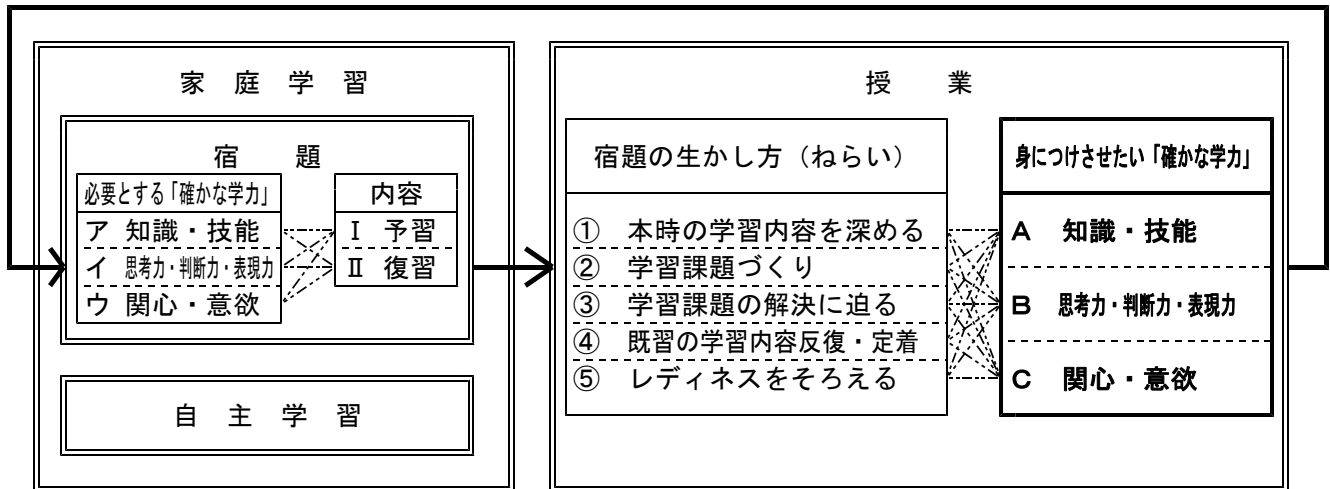


図 岩泉中における授業と家庭学習の具体的なサイクル

### (1) 本時で身につけさせたい確かな学力

B 思考力・判断力・表現力

### (2) 本時の授業と家庭学習のサイクルパターン

ウ→I→①→B

### (3) 授業構想

本単元を貫く課題は、「岩泉のまちづくりを提案しよう」である。岩泉のまちづくりを提案するため、前時まで地方自治の概要を学んできた。本時は、架空の町のまちづくりを考えることを通して、「B 思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることをねらいとし、岩泉のまちづくりを考える際の視点を学ぶ時間である。

地方自治の概要を学ぶまとめの時間となった前時の最後に、岩泉のまちづくりを考えるにあたって、家の人が岩泉町に対してどのような意識をもっているのか、またどのようなまちづくりのアイデアを持っているのか、インタビューになって調査するという「ウ 関心・意欲」を必要とする「I 予習」的な内容である宿題を提示した。本時では、展開部で、視点を学ぶために他町（架空）のまちづくりを考えさせ、必要な視点を整理する。その後で、実際に家の人は、岩泉のまちづくりをどのような視点で考えたのか、習得した視点を活用して考えさせる。ここで生かした前時の宿題は、「① 本時の学習内容を深める」ねらいをもつ。したがって、上記の「岩泉中における授業と家庭学習の具体的なサイクル」にあてはめると、左から「ウ→I→①→B」となる。このあと、本時の宿題は、今日学んだ視点から岩泉のまちづくりについて考えてくることであると告げる。最後に、授業の感想を記入、発表し、視点を習得した意義を共有した上で、授業を締めくくりたい。

まちづくりを考える授業は、小学校、また総合的な学習の時間でも行われる。中学校社会科でまちづくりを扱う以上、指導する教師側がそれらとの違いを明確に意識する必要がある。それは、教科目標である「多面的・多角的な考察」をさせる手だてを講じること、具体的には、町の現状（長所・課題）を把握した上で、「主体（＝官・民）」「財源（ある・ない）」「対象（町民・町外の人）」「注目するもの（長所・課題）（町にあるもの・新しいもの）（ソフト・ハード）」という視点（＝「面」、（ ）内が「角度」）からまちづくりを考えさせることであり、その視点を習得させることと考える。本時の宿題はこのうち、主体は民、財源はない（財源が必要な場合は、それを生み出す方法も考えてくる）、という条件を揃えた上で、それぞれの視点から岩泉のまちづくりを考えさせるものである。単元のまとめである次時は、グループ内で宿題の意見を練り上げ、実際に提案（役場の広報担当者）させることで、地域住民としての社会参画の態度と能力を養いたい。

## 6 本時について (5/6)

### (1) 目標

- ① 架空の町のまちづくりについて、複数の資料から自分の考えをまとめることができる。  
(社会的な思考・判断・表現①)
- ② 自分のグループのまちづくりについて、学んだ視点をもとに考えることができる。  
(社会的な思考・判断・表現②)

### (2) 評価規準

観点	評価規準	努力を要する生徒への手だて
社会的な思考・判断・表現①	架空の町のまちづくりについて、複数の資料から自分の考えをまとめている。	教科書や昨年度の過疎活性化の授業の想起からまちづくりのイメージを具体的にし、長所伸長か課題克服のどちらかの視点に絞って考えさせる。
社会的な思考・判断・表現②	自分のグループのまちづくりについて、学んだ視点をもとに考えている。	全ての視点ではなく、「財源」、「対象」のどちらかに絞って考えさせる。

### (3) 展開

段階	学習活動 (宿題関連は <input type="checkbox"/> )	指導上の留意点	評価規準・評価方法
導入 5分	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 岩泉に対する意識調査結果を確認する。</li> <li>2 単元を貫く課題を確認する。</li> <li>3 本時の学習課題を確認する。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の導入で意識調査を行い、その結果をまとめておく。まちづくりの必要性を実感させたい。</li> <li>・ 岩泉のまちづくりを提案するために学んだ前時までだったことを確認する。</li> </ul>	
<b>まちづくりに必要な視点を学ぼう。</b>			
展開 38分	<ol style="list-style-type: none"> <li>4 架空の町のまちづくりを考える。</li> <li>5 グループ内で意見交流し、意見をまとめる。</li> <li>6 まちづくりに必要な視点を習得する。</li> <li>7 自分のグループはどのような視点でまちづくりを考えていたのか習得した視点を活用して考える。</li> <li>8 まちづくり成功の実例から、イメージを広げる。</li> </ol> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">           9 家の人はどうの視点でまちづくりを考えていたのか確認する。         </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に他の町のまちづくりを考え、視点を学び、岩泉のまちづくりを考え提案する、という流れを確認した上で、自由に考えさせたい。</li> <li>・ 具体案がまとまらないグループを支援する。</li> <li>・ 各グループの意見に触れながら、まちづくりに必要な視点を整理する(「視点」の詳細は授業構想、板書計画を参照)。</li> <li>・ 視点が明確でない場合、複数の角度から考えている場合があることを伝える。</li> <li>・ 架空の町のモデルが、成功事例として名高い上勝町だったことを明かし、紹介する。</li> <li>・ 前時の宿題は「インタビューになって、家の人々の岩泉町の(まちづくりの)イメージを探る」である。家の人はどうの視点から考えたか思考させることで、「視点」の意識を明確にさせたい。</li> </ul>	<p><b>【思考・判断・表現①】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 架空の町のまちづくりについて複数の資料から自分の考えをまとめている。 (学習プリント)</li> </ul> <p><b>【思考・判断・表現②】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分のグループのまちづくりについて、学んだ視点をもとに考えている。 (学習プリント)</li> </ul>
まとめ 7分	<ol style="list-style-type: none"> <li>10 宿題と次時の学習内容を確認する。</li> <li>11 本時を振り返る。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習、視点をもとに、岩泉町のまちづくりを考えてくることを宿題とし、次時はそれをグループで練り上げ、実際に提案することを告げる。</li> <li>・ まちづくりに必要な視点を学んだことによる次時への意欲や、自分の考えなど、なるべく多様な考えを発表させて、本時の学びを共有させる。</li> </ul>	

#### (4) 板書計画

単元の課題	岩泉のまちづくりを提案しよう
今日の課題	まちづくりに必要な視点を学ぼう

○ 他の町のまちづくり

A	D
---	---

B	E
---	---

C	F
---	---

○ まちづくりに必要な視点

- ① 主体は？ (官 or 民)
- ② 財源は？ (ある or ない)
- ③ 誰を対象？ (町民 or 町外の人)  
: 観光客 or 購買者 or 移住者
- ④ 何に注目？  
ア 長所 (伸長) or 課題 (克服)  
イ 町にあるもの or 新しいもの  
ウ ソフト (こと) or ハード (もの)

↓

今日の宿題

今日学んだ視点から 岩泉のまちづくりを考えよう
----------------------------